

計画として議論されているような現状は、学会自身が官庁にならってビュロクラティックに変形しつつある一つの証拠ではないだろうか。

文 献

- 1) 根本順吉 (1970) : 気象学の立場から. 蟻塔 Vol. 16, No. 4 特集“地球科学者は'70年代をどうみるか”所収 p. 2-5.
- 2) 根本順吉 (1970) : 終末論的気候変動観, 群像 (1970) 6月号, これは気候変動に関連して書いたほんの一例である. 外国のものをあげればきりが無いが, 古典としてカーソン(1962): 生と死の妙薬, 自然均衡の破壊者 <化学薬品> (青樹築一氏の邦訳あり, 新潮社, (1964) だけをあ

げておこう.

- 3) 哲学者の市井三郎氏は, 70年4月24日の岩波市民講座“歴史における進歩の意味”の中で, 多くの論証で裏づけながら, 半ば直観的に“21世紀まで人間が生き残る確率は非常に少ない”ことをのべた.
- 4) この声明は日本気象学会75年史 (1957) p. 67-68 に掲載されている. “人間の名において”原子兵器の禁止を訴えたこの声明文は格調の高い内容をもったものであり, 全国気象職組 (1959) の伊勢湾台風についての声明と共に, 歴史的な問題意識の高さにおいて, 現在もなお反省のよすがとなるものである.

第 15 期 第 14 回常任理事会議事録

日 時 昭和45年3月9日 15.00~18.00
場 所 気象庁研修教室
出席者 山本理事長, 大田, 竹内, 根本, 朝倉, 岸保, 松本, 小平, 北川, 各常任理事

報 告

庶 務: 2月26日 朝日学術奨励金候補者として気象研究所長北岡竜海外共同研究者2名を推薦した(研究題目, 局地的な大雨. 大雪の客観的予測方式に関する研究)

議 題

議決事項

1. 昭和45年度総会準備について
理事長あいさつ, 事業経過報告, 事業計画, 予算案および決算書を次回までにまとめる.
2. 学会賞, 藤原賞候補者について
各推薦委員長から報告された次の候補者をそれぞれ適当と認める
学会賞
赤道附近の準地衝風の運動の研究
松野 太 郎 (九州大学理学部)
大気イオンスペクトラムの研究
三 崎 方 郎 (気象研究所)

藤原賞

北日本の長期予報と日本の豪雪についての永年にわたる業績
福 田 喜代志 (新潟地方気象台)

3. 学会奨励金 (假称) について

十分な研究費, 研究環境に恵まれない会員の研究を奨励するため奨励金制度をもうけることとし「奨励金受領者選定規定 (案)」が承認された.

4. その他

- (1) 外国文献集刊行事務の推進について
AMS. Tellus に問合せの手紙を出すことにする.
- (2) 正野教授記念論文集の論文依頼案について
和文・欧文とも一部修正の上承認された.
- (3) 長期計画委員会設置について
1965年の長期計画を基礎とし新しい展望の下に新長期計画を立案するため長期計画委員会を設ける.

承認事項

賛助会員, 中国電力KK, 通常会員浅野正二他14名の入会を承認する.